

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造機能学 I - 3

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	鈴木 得二郎	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	<p>生体の構造機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造機能を学んでいく。</p> <p>今までに学んだ解剖学をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行う。</p>
授業の一般目標 (G10)	<p>人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の機能について理解するとともに、その評価方法についても学習する。国家試験に合格するために、解剖学について、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。</p>
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・運動器総論について理解を深めることができる。 ・上肢、下肢の神経、骨、筋、局所解剖について理解を深めることができる。 ・体幹の神経・骨・筋・局所解剖について理解を深めることができる。 ・頭頸部の神経・骨・筋・局所解剖について理解を深めることができる。 ・自律神経について理解を深めることができる。 ・伝導路について理解を深めることができる。 ・中枢神経について理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	解剖学 (学校協会編)
参考書	
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。</p>
成績評価方法	<p>1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満</p>
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 構造機能学 I - 3 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	Introduction		講義
	2	運動器総論（骨・筋）	骨・筋	講義
	3	上肢	神経・骨・筋・局所解剖	講義
	4			講義
	5	下肢		講義
	6			講義
	7	体幹		講義
	8	頭頸部、自律神経		神経・骨・筋・局所解剖、自律神経
	9	頭頸部	講義	
	10	伝導路		講義
	11	1学期試験		試験
	12	中枢神経		講義
2期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
3期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造機能学Ⅱ-3

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	鈴木 得二郎	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	2 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	<p>生体の構造機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造機能を学んでいく。</p> <p>今までに学んだ解剖学をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行う。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の機能について理解するとともに、その評価方法についても学習する。国家試験に合格するために、解剖学について、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。</p>
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器の正常な構造機能について理解を深めることができる。 ・呼吸器の正常な構造機能について理解を深めることができる。 ・消化器の正常な構造機能について理解を深めることができる。 ・泌尿器の正常な構造機能について理解を深めることができる。 ・生殖器の正常な構造機能について理解を深めることができる。 ・感覚器の正常な構造機能について理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	解剖学 (学校協会編)
参考書	
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。</p>
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 2期試験に代わって実施される、一次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 構造機能学Ⅱ－3 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	1	人体の正常な構造機能(細胞と組織)	人体を構成する細胞と組織	講義
	2	人体の正常な構造機能(循環器)	心臓の構造	講義
	3	人体の正常な構造機能(循環器)	血管・リンパ	講義
	4	人体の正常な構造機能(呼吸器)	呼吸器	講義
	5	人体の正常な構造機能(消化器)	消化管	講義
	6	人体の正常な構造機能(消化器)	消化腺	講義
	7	人体の正常な構造機能(泌尿器)	泌尿器の構造	講義
	8	人体の正常な構造機能(生殖器)	男性生殖器の特徴、受精と発生	講義
	9	人体の正常な構造機能(生殖器)	女性生殖器の特徴、胎児循環	講義
	10	人体の正常な構造機能(感覚器)	皮膚・視覚器	講義
	11	人体の正常な構造機能(感覚器)	聴覚平衡感覚器・味覚器	講義
	12	人体の正常な構造機能(まとめ)		講義
3期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造機能学Ⅲ-2

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	李 英俊	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	各器官系における生体の機能を理解した上で、器官相互の有機的な繋がりを学ぶ。鍼灸師の分野に必要な生理学的知識を確認する。また、演習問題により国家試験の傾向と対策を学ぶ。 今までに学んだ「病理学」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につける。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、人体構造機能学の知識を「生理学」として系統的に理解し、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。 国家試験に合格するために、病理学について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・循環の正常な機能と循環障害について理解することができる。 ・生体防御作用と炎症・アレルギーについて理解することができる。 ・腫瘍について理解することができる。 ・内分泌の正常な機能と分泌異常について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	生理学（第3版）：東洋療法学校協会編 病理学（第2版）：東洋療法学校協会編
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<p>1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習と発展を行うこと
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のスマートフォン、携帯電話の使用は原則禁止 ・教科書中心の予習、復習と発展をすること

【授業計画】 構造機能学Ⅲ－2 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	構造機能学の総合評価		演習
	2	生理学（循環）	心周期と心電図、血圧、循環調節	講義
	3	生理学（循環）	血球と血漿、血液凝固、血液型	講義
	4	生理学（生体防御）	白血球の種類と働き、免疫反応	講義
	5	病理学（循環障害）	循環障害	講義
	6	病理学（炎症・アレルギー）	炎症の経過と分類、アレルギー	講義
	7	病理学（腫瘍）	腫瘍細胞の特徴、腫瘍の分類	講義
	8	生理学（内分泌）	分類、視床下部と下垂体	講義
	9	生理学（内分泌）	甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎	講義
	10	生理学・病理学（内分泌）	精巣、卵巣、その他、分泌異常	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【科目】 臨床医学Ⅴ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	森本 善之	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	はり、きゅう指圧臨床の際に必要な代表的疾病について基本的な理解を促すとともに、それまでの学習内容を振り返り発展と応用に結びつける。 新たな学習範囲としては、精神科・心療内科疾患および老年医学の概要について学ぶ。
授業の一般目標 (GIO)	精神科・心療内科・小児科および老年医学領域で扱う代表的な疾患について、各々病気の概要（成り立ち、症状および治療）を学習する。 鍼灸臨床の基礎となる臨床医学一般のうち、履修済の内容を包括的に復習し、多角的な視点を涵養することで実践的知識へと発展させることを目指す。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科疾患について理解することができる。 ・心療内科・小児科疾患について理解することができる。 ・消化器疾患について理解することができる。 ・呼吸器疾患について理解することができる。 ・循環器疾患について理解することができる。 ・内分泌・膠原病疾患について理解することができる。 ・腎・尿路疾患について理解することができる。 ・神経系疾患について理解することができる。 ・運動器疾患について理解することができる。 ・末梢神経疾患、神経痛、頭痛について理解することができる。 ・外科、麻酔科、婦人科、皮膚科、眼科疾患について理解することができる。 ・耳鼻科疾患、精神科・心療内科疾患について理解することができる。 ・老年期、小児科疾患について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	東洋療法学校協会編/臨床医学各論第2版. 医歯薬出版
参考書	都度参考資料を配付する
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 1 期試験 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、C を合格、D を不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満 3. 2、3 期試験に代わって実施される、一、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	予習課題および復習課題を出すことがあり、成績の評価の際に加点要素とする。
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 臨床医学Ⅴ 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	【老年期疾患】	老年期の身体・心理特性 フレイル(基準・チェックリスト)	講義
	2	【老年期疾患】	サルコペニア・ロコモ治療	講義
	3	消化器疾患の総括-1	口腔、食道疾患	
	4	消化器疾患の総括-2	胃・十二指腸、腸疾患	講義
	5	呼吸器疾患の総括-1	呼吸器の感染性疾患	講義
	6	呼吸器疾患の総括-2	閉塞性呼吸器疾患	講義
	7	循環器疾患の総括-1	心不全	講義
	8	循環器疾患の総括-2	心臓弁膜症、その他の心疾患	講義
	9	内分泌・膠原病疾患の総括-1	内分泌疾患	講義
	10	内分泌・膠原病疾患の総括-2	膠原病	講義
	11	試験		試験
	12	試験の解説	試験内容のフィードバック	試験
2期	13	腎・尿路疾患の総括-1	腎疾患	講義
	14	腎・尿路疾患の総括-2	腎疾患	講義
	15	神経系疾患の総括-1	脳血管障害、感染性疾患	講義
	16	神経系疾患の総括-2	脳、脊髄疾患、基底各変性疾患	講義
	17	運動器疾患の総括-1	筋疾患の特徴	講義
	18	運動器疾患の総括-2	運動ニューロン、末梢神経疾患	講義
	19	末梢神経疾患、神経痛、頭痛	末梢神経疾患、神経痛および頭痛	講義
	20	外科総論の総括	外科総論	講義
	21	麻酔科の総括	麻酔科、ペインクリニック	講義
	22			講義
	23	婦人科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患の総括	婦人科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患	試験
24			講義	
3期	25	耳鼻科疾患、精神科・心療内科の総括	耳鼻科疾患、精神科、心療内科疾患	講義
	26			講義
	27	老年期、小児科疾患の総括	老年期疾患、小児科疾患	講義
	28			講義
	29	鍼灸臨床の基礎 臨床医学一般		講義
	30			講義
	31			講義
	32			講義
	33			講義
	34			講義
	35			講義
	36			講義

【分野】 専門分野

【科目】 東洋医学概論－2

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	岡田 智和	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	東洋医学的な治療方法や弁証論治を臨床に応用することができる授業をおこなう。東洋医学の診断法である四診を理解し、四診から得られる情報を基に証を決定する。さらに、証に応じた治療法、治療穴について学ぶ。また、様々な刺法の特徴についても学んでいく。
授業の一般目標 (G10)	東洋医学の理念に基づいた病証概念、治療原則、弁証論治を理解し臨床に応用できる。要穴の種類と部位と解剖学的関連を学習する。 1 年次・2 年次に修得した単元を復習し、応用能力を身につける。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 是動病と所生病 十二経脈の病証について理解することができる。 ・ 奇経八脈病証について理解することができる。 ・ 経筋病 六経病 三陰三陽病(六病位)について理解することができる。 ・ 証のたて方、養生法、治療原則について理解することができる。 ・ 九鍼・刺法について理解することができる。 ・ 標本・主客、論治、禁忌・補瀉法について理解することができる。 ・ 補瀉法、難経六十九難、難経七十五難について理解することができる。 ・ 選穴の原則、湯液の特徴について理解することができる。 ・ 四総穴・八会穴・八脈交会穴・交会穴・下合穴について理解することができる。 ・ 陰陽論、五行説、気血津液、蔵象、病因、病証、四診法について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	新版 東洋医学概論、新版 経絡経穴概論 (東洋療法学校協会編)
参考書	経絡演習図 (呉竹学園編) 東洋医学概論(東洋療法学校協会編)
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 1 期試験 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満 3. 2 期試験に代わって実施される、一次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書・参考書を利用して予習・復習を行う。
履修にあたっての留意点	難解な漢字・語句がある場合は、漢字辞典・国語辞典などを用いて調べるとよい。スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

【授業計画】東洋医学概論－2 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	経絡弁証：是動病と所生病 十二経脈の病証①	是動病と所生病、正経の流注と弁証	講義
	2	経絡弁証：十二経脈の病証②	正経の流注と弁証	講義
	3	経絡弁証：十二経脈の病証③ 奇経八脈病証	奇経の弁証、経筋の概要	講義
	4	経絡弁証：経筋病 六経病 三陰三陽病(六病位)	六経病	講義
	5	証のたて方 治療論：養生法・治療原則	証のたて方、養生、治療原則	講義
	6	治療法 九鍼・刺法（九刺）	古代九鍼	講義
	7	刺法（十二刺・五刺・三刺）	刺法	講義
	8	標本・主客 論治(治則・八法) 禁忌・補瀉法(用鍼・治法)	標本・主客・論治、鍼灸の禁忌、灸の補瀉法	講義
	9	補瀉法(取穴の補瀉) 難経六十九難(臟)	難経六十九難	講義
	10	補瀉法(取穴の補瀉) 難経六十九難(腑)		講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	補瀉法(取穴の補瀉) 難経七十五難	難経七十五難	講義
	14	選穴の原則	選穴の原則	講義
	15	湯液の特徴	生薬、気味、八法、瞑眩	講義
	16	四総穴・八会穴・八脈交会穴・交会穴・下合穴の意義の復習	四総穴・八会穴・八脈交会穴・交会穴・下合穴	講義
	17	陰陽論の復習 五行説の復習	陰陽論五行説	講義
	18	気血津液の復習・奇穴の復習	気血津液、奇穴	講義
	19	蔵象の復習①・五要穴・五行穴・五俞穴	蔵象、五要穴・五行穴・五俞穴	講義
	20	蔵象の復習②	蔵象、臓腑・奇恒の腑	講義
	21	弁証の復習：八綱・気血津液・衛気営血・その他の弁証	八綱弁証、気血津液弁証、衛気営血弁証	講義
	22			講義
	23	病因の復習	病因、病証	講義
	24	病証と四診法の復習	病証、四診法（舌診・脈診・腹診）	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 経絡経穴概論－2

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	萱間 洋平	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ「経絡経穴概論」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の学力を身につける。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> 各経脈の取穴部位の確認とその解剖部位の関連性を復習し、総合的な理解と解釈を学習する。 十四経脈の取穴を学習する。 十四経脈の取穴部位を解剖学的に学習する。 要穴の理解と治療への応用を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> 要穴、奇穴について理解することができる。 上肢陰経、陽経について理解することができる。 下肢陰経、陽経について理解することができる。 頭頸部・顔面部・胸腹部の経穴について理解することができる。 背腰部の経穴について理解することができる。 正経十二経脈・奇経八脈の流注について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	新版東洋医学概論 新版経絡経穴概論
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<p>1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	授業後の復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	難解な漢字、語句がある場合は、漢字辞典・国語辞典などを用いて調べるとよい。 スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

【授業計画】経絡経穴概論－2 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	要穴 1	原穴・郄穴・絡穴・募穴・背部愈穴・下合穴	講義
	2	要穴 2	井穴・榮穴・愈穴・経穴・合穴	講義
	3	要穴 3・奇穴	四総穴・八会穴・八脈交会穴と奇穴	講義
	4	上肢陰経の経穴	上肢陰経の経穴と筋・神経・血管	講義
	5	上肢陽経の経穴	上肢陽経の経穴と筋・神経・血管	講義
	6	下肢陰経の経穴	下肢陰経の経穴と筋・神経・血管	講義
	7	下肢陽経の経穴	下肢陽経の経穴と筋・神経・血管	講義
	8	頭頸部・顔面部・胸腹部の経穴	主な頭頸部・顔面部・胸腹部の経穴、胸腹部の横並び	講義
	9	背腰部の経穴	背腰部の経穴の横並び、背腰部の筋・神経	講義
	10	正経十二経脈・奇経八脈の流注	正経十二経脈と奇経八脈の流注	講義
	11	試験		試験
	12	総復習・まとめ	試験内容のフィードバック	講義
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【分野】 専門分野

【科目】 東洋医学の応用－2

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	中田 智之	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1学期・2学期・3学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	1年次、2年次に学んだ解剖学、生理学、はき理論、経絡経穴概論の知識を、臨床施術に応用する力を身につける。また、患者に対する的確な説明ができる知識を習得する。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・ はき治療について基本的知識を学習する。 ・ はき治療に関連する治効理論を学習する。 ・ はき治療に必要な、症候からの臨床応用への道筋を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ はき治効理論について説明することができる。 ・ はきの一般治効理論について説明することができる。 ・ はりきゅうと東洋医学について説明することができる。 ・ はき治療におけるリスク管理について説明することができる。 ・ 経絡経穴概論の学習した内容を復習し、理解を深めることができる。 ・ はき理論の学習した内容を復習し、理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	はりきゅう理論、病理学概論：学校協会編
参考書	鍼灸臨床最新科学(川喜田健司、矢野忠編)医歯薬出版、 図解 鍼灸療法技術ガイド(矢野忠編)文光堂
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 1期試験 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 3. 2、3期試験に代わって実施される、一、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	教科書とプリントを中心に授業を行います。授業の理解には出席が必要です。欠席をしないようにしてください。

【授業計画】 東洋医学の応用—2 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	鍼鎮痛 内因性痛覚抑制系	概要、全身性鎮痛	講義
	2	鍼鎮痛 内因性痛覚抑制系	全身性鎮痛	講義
	3	鍼鎮痛 内因性痛覚抑制系	脊髄分節性鎮痛、末梢性鎮痛	講義
	4	循環系と鍼灸		講義
	5	運動系と鍼、消化器系と鍼		試験
	6	泌尿器系と鍼、リラクゼーションと鍼		講義
	7	生体防御系と鍼灸		講義
	8	鍼灸治効機序と臨床の接点		講義
	9	鍼灸治効機序と臨床の接点		講義
	10	まとめ		講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	復習(経絡・経穴の基礎)	問題演習	講義
	14	復習(督脈・任脈)	問題演習	講義
	15	復習(手の太陰肺経、陽明大腸経)	問題演習	講義
	16	復習(足の陽明胃経、太陰脾経)	問題演習	講義
	17	復習(手の少陰心経、太陽小腸経)	問題演習	講義
	18	復習(足の太陽膀胱経、少陰腎経)	問題演習	講義
	19	復習(手の厥陰心包経、少陽三焦経)	問題演習	講義
	20	復習(足の少陽胆経、厥陰肝経)	問題演習	講義
	21	復習(奇形八脈・奇穴)	問題演習	講義
	22	復習(経絡・経穴の現代的な研究)	問題演習	講義
	23	復習(総まとめ)	問題演習	講義
	24	復習(総まとめ)	問題演習	講義
3期	25	復習(はき施術の基本)	鍼灸の基礎知識	講義
	26	復習(はりきゅうの臨床応用)	鍼灸施術の臨床応用	講義
	27	復習(痛覚、温度覚、触圧覚)	感覚と伝導路	講義
	28	復習(反射、鍼鎮痛)	鍼灸に関する反射、鍼鎮痛	講義
	29	復習(鍼鎮痛)	鍼鎮痛	講義
	30	復習(自律神経に及ぼす影響)	鍼灸の自律神経に及ぼす影響	講義
	31	復習(血流に及ぼす影響)	鍼灸の血流に及ぼす影響	講義
	32	復習(生体防御機構に及ぼす影響)	鍼灸の生体防御機構	講義
	33	復習(関連学説)	関連学説(サイバネティクス、ホメオスタシス)	講義
	34	復習(関連学説)	関連学説(ストレス学説、レイリー現象、圧自律神経反射)	講義
	35	復習(総まとめ)	問題演習	講義
	36	復習(総まとめ)	問題演習	講義

【分野】 専門分野

【科目】 東洋医学臨床論Ⅲ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	中村 真通	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	鍼灸臨床において頻繁に遭遇する主要症候について、現代医学的に病態把握し、鍼灸適不適の鑑別が出来る知識を習得する。その上で、現代医学・東洋医学それぞれの考え方に基づく病態把握・治療方針・具体的な治療方法を習得する。 今までに学んだ「東洋医学臨床論」の全範囲を対象として総合力を身に付ける。
授業の一般目標 (G10)	はき臨床における主要症候に対して病態把握や適不適の判断ができる知識を学習する。 はき臨床における現代医学・東洋医学それぞれの考えに基づく病態把握や治療方針や具体的な治療方法を学習する。
到達目標 (SB0s)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 血圧異常（高血圧症・低血圧症）について鑑別と治療法を理解することができる。 ・ 肥満について鑑別と治療法を理解することができる。 ・ 食欲不振について鑑別と治療法を理解することができる。 ・ のぼせと冷え、発熱について鑑別と治療法を理解することができる。 ・ 発疹、睡眠障害について鑑別と治療法を理解することができる。 ・ 疲労と倦怠、気分障害について鑑別と治療法を理解することができる。 ・ 老年、小児の徴候について鑑別と治療法を理解することができる。 ・ 東洋医学臨床論の学習した内容を復習し、理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	東洋医学臨床論 〈はりきゅう編〉（学校協会編）
参考書	新版 東洋医学概論、新版 経絡経穴概論、臨床医学各論、臨床医学総論、リハビリテーション医学、はりきゅう理論
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 1 期試験 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 3. 2、3 期試験に代わって実施される、一、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	授業の復習を行う。
履修にあたっての留意点	スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

【授業計画】 東洋医学臨床論Ⅲ 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	東洋医学臨床論Ⅲの全体像	イントロダクション	講義
	2	血圧異常（高血圧症・低血圧症）	血圧異常	講義
	3	肥満・運動麻痺（中枢性）・歩行異常	中枢性麻痺・歩行異常	講義
	4	食欲不振・冷えのぼせ	食欲不振・冷えのぼせ	講義
	5	発熱	発熱	講義
	6	癢痒感(痒み)・肌荒れ・発疹	癢痒感(痒み)・肌荒れ・発疹	講義
	7	睡眠障害	不眠	講義
	8	疲労と倦怠・気分障害	疲労と倦怠・うつ状態	講義
	9	老年特有の症候(運動器症候群・認知症)	老年医学	講義
	10	小児特有の症候の復習	小児の症状	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	頸肩腕痛・上肢痛の復習	問題演習	講義
	14	肩こり・肩関節痛の復習	問題演習	講義
	15	腰下肢痛・膝痛・下肢痛の復習	問題演習	講義
	16	運動麻痺（末梢性）の復習	問題演習	講義
	17	スポーツ障害の復習	問題演習	講義
	18	頭痛の復習	問題演習	講義
	19	顔面痛・歯痛の復習	問題演習	講義
	20	顔面麻痺の復習	問題演習	講義
	21	眼精疲労・脱毛の復習	問題演習	講義
	22	口渇・浮腫・出血傾向	問題演習	講義
	23	試験		講義
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25	めまい・耳鳴りと難聴の復習	問題演習	講義
	26	咳嗽・喘息の復習	問題演習	講義
	27	鼻閉鼻汁・胸痛の復習	問題演習	講義
	28	腹痛の復習	問題演習	講義
	29	悪心嘔吐の復習	問題演習	講義
	30	便秘と下痢の復習	問題演習	講義
	31	排尿障害・勃起障害の復習	問題演習	講義
	32	女性特有の症候の復習	問題演習	講義
	33	女性特有の症候の復習	問題演習	講義
	34	総復習	問題演習	講義
	35	試験		講義
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【分野】 専門分野 社会はり学・社会きゅう学

【科目】 社会はき学

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	高橋 恵	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	<p>医療に従事する職種に関する基本的な規定、また、鍼灸師が免許を有することで担う義務と責任を学習する。</p> <p>医療を担う一員として、人類にとって医療とは何か、そして医の倫理とは何か、その原点を常に広い視野に立って深く洞察できる人間性・人格を養う。</p> <p>人口問題から疫学、感染症、生活習慣病、さらには環境問題等の現状と問題点を解説するとともに、健康保持のための個人レベル、社会レベルでの方策について理解する。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・はり師、きゅう師として、社会の中で活動していく上で必要な法律上の規定を知る。 ・医療を担う一員として、人類にとって医療とは何か、そして医の倫理とは何か、その原点を常に広い視野に立って深く洞察できる人間性・人格を養う。 ・疫学・統計を学ぶことで、日本の保健衛生の現状を知る。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・法の意義、法の体系、免許・試験について理解することができる。 ・業務、広告・罰則について理解することができる。 ・医療法・医師法、医事・福祉法規について理解することができる。 ・疫学、統計について理解することができる。 ・現代医学と医療について理解することができる。 ・医療従事者の倫理について理解することができる。 ・衛生学、関係法規、医療概論の学習した内容を復習し、理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	「関係法規」(学校協会編)「衛生学・公衆衛生学」(学校協会編)
参考書	
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。</p>
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 1 期試験 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 3. 2 期試験に代わって実施される、一次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 社会はき学 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	法の意義、法の体系 免許・試験について	法の種類、免許証書換・再交付試験（受験手続き、試験の施行）	講義
	2	業務について	業務の独占と範囲、施術に関する注意、開設届、構造設備基準、知事の監督、出張・滞在業務	講義
	3			
	4	広告・罰則について	施術所の名称制限、広告の制限、罰金（施術者、施術所）、両罰規定	講義
	5	医療法・医師法、その他の医事・福祉法規	病院、診療所、助産所の定義、医師の仕事、薬事関係法規、生活保護法、児童福祉法、障害者自立支援法、老人福祉法、健康保険法、介護保険法等	講義
	6	学校保健	学校保健を担う職員、学校三師、健康管理、学校感染症、学齢期の健康状況、学校環境衛生基準	講義
	7	疫学	疫学調査の研究	講義
	8	統計	保健統計の種類（国勢調査、人口動態統計） 国民生活基礎調査、患者調査	講義
	9	現代医学と医療	現代医学の課題・医療制度 （近世医学、終末期医療、先進医療、臓器移植、国民医療費）	講義
	10	医療従事者の倫理	医療倫理（ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、患者の権利宣言、インフォームドコンセント、アドヒアランス、バイオエシックス、Q.O.L.、S.O.L）	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	健康（健康管理）	疾病予防（一次～三次予防）	講義
	14	健康（衛生行政）	わが国の医療保険制度の特徴、保険者と被保険者	講義
	15	ライフスタイルと健康	栄養素の過剰・欠乏疾患、食中毒	講義
	16	日常生活環境	物理学的・化学的環境要因、典型七公害の原因と症状	講義
	17	公害、地球規模の環境問題	内分泌攪乱化学物質、オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨	講義
	18	産業衛生	産業衛生関係法規、業務上疾病	講義
	19	精神保健・母子保健	精神障害者に対する医療と保護、入院・外来患者で多い疾患、母子保健における用語（リプロダクティブヘルス含む）、死亡統計	講義
	20	成人・高齢者保健	生活習慣病（特定健康診査・保健指導）、介護保険制度	講義
	21	感染症	病原微生物と疾患、病原微生物と感染経路、感染症法、予防接種法	講義
	22	消毒	物理的消毒法、化学的消毒法	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう応用実技Ⅰ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	高野 耕造	
単位数	2 単位		実務経験	5年以上
開講学期	前・後期	授業形態・回数	実技	36回

【授業情報】

授業概要	<p>前期は循行経脈を用いた治療が行えるように能力の向上をはかる。そのために必要な知識を養う。これにより全身的な鍼灸治療を行う。また、隔物灸、灸頭針など治法に応じた鍼灸療法として学ぶ。</p> <p>施術経験を活かし、はりきゅうの施術手法について、より実践的な授業を行う。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>前期では循行経絡治療・循行経筋治療・経脈サイクル治療・子午流注治療の意義を学習し、臨床で活用できるようにする。弁証の復習と治法に応じた治療ができるように学習する。</p> <p>後期では舌診・腹診・脈診と奇経八脈治療を学習する。</p>
授業の到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四診法（舌診、脈状診、腹診、背候診）ができる ・ 証の決定、治法に応じた治療方針、選穴ができる。 ・ 灸頭鍼、隔物灸、各種吸角療法を正しく行う事ができる。 ・ 治法に応じた鍼通電療法が正確に行う事が出来る。 ・ 奇経治療を用いた婦人科鍼灸治療ができる。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を評価試験にて評価を行う。</p>
成績評価方法	<p>成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】はりきゅう応用実技Ⅰ 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
前期	1	傾聴と自律神経調整法・リラクゼーション法の学習	傾聴と自律神経調整法	講義/実技
	2	舌診の基礎知識を学習する	無痛刺鍼法	実技
	3	舌診に基づく治療を学習する	舌診断	講義/実技
	4	脈状診の学習	舌診断による治療	実技
	5	脈状診に基づく治療の学習	脈状診	講義/実技
	6	腹診を学習する	脈状診による治療	実技
	7	腹診に基づく治療を学習する	腹診断ができる	講義/実技
	8	四診合一に基づく治療の学習	腹診断による治療	実技
	9	四診合一に基づく治療の学習	四診合一診断	実技
	10	気血津液の生成理論と弁証を学習する	気血津液弁証	実技
	11	太陰サイクル治療（肺-大腸-胃-脾の循環を活性化）を履修	同名サイクル治療	実技
	12	少陰サイクル治療（心-小腸-膀胱-腎の循環を活性化）を履修		実技
	13	厥陰サイクル治療（心包-三焦-胆-肝の循環を活性化）を履修		実技
	14	治法：解表法の意義と吸角法を学習する 清熱解表法として吸角法を学習する	吸角の操作	実技
	15	補気・清熱法として吸角法を学習する	青龍吸角法	実技
	16	治法：補陽法として温灸法を学習する	温灸法	実技
	17	前期試験		試験
	18	前期試験		試験
後期	19	治法：補陽法として灸頭鍼法を学習する	灸頭鍼	実技
	20	治法：理気法と安神法を学習する	鍼通電	実技
	21	治法：通導法と理血法（活血化瘀）法を学習する	鍼通電	実技
	22	循行経絡治療を学習する	循行経絡治療	実技
	23	循行経絡治療を学習する：知熱感度測定法	知熱感度測定法	実技
	24	中国鍼の打ち方の練習	中国鍼	実技
	25	経筋治療（頸の治療）を学習する	経筋治療ができる	実技
	26	経筋治療（腰の治療）を学習する		実技
	27	経筋治療（膝・肘の治療）を学習する		実技
	28	奇経八脈の基礎（八脈交会穴治療）を学習する	八脈交会穴治療	実技
	29	奇経八脈を用いた各種の治療を学習する	奇経八脈治療	実技
	30	奇経八脈を用いた婦人科治療を学習する		実技
	31	後期試験		試験
	32	後期試験		試験
	33	奇経八脈を用いた婦人科治療を学習する	奇経八脈治療	実技
	34	火龍筒連続吸角法	火龍筒連続吸角法	実技
	35	病因病機を症例から学習する	症例問題	実技
	36	病因病機を症例から学習する		実技

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう応用実技Ⅱ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	畠山博式・深山 千歳/齋藤 秀樹	
単位数	2 単位		実務経験	5年以上
開講学期	前・後期	授業形態・回数	実技	36回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・治療経験を活かし、より臨床に即した実技授業を展開する。 ・2年の臨床実技でも重視し行われた、临床上遭遇する頻度の高い整形外科症状に対する鍼灸治療を実践的に行う。 ・実践的に学生同士で相手の症状に対して、一連の鍼灸施術を行う。 ・経絡治療を行うために必要な基礎診断理論と技術を学習する。 ・頭部、顔面部の経穴を用いた応用として美容鍼灸の基本的な技術を学習する。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科的に代表的な4大症状に対する鍼灸治療ができる。 ・一般臨床で遭遇する可能性のある内科系症状や諸症状について鍼灸治療を行うことができる。 ・患者をイメージし一連の治療を組み立て、行うことができる。 ・経絡治療の病理理論に基づいて、治療を行う上で必要とされる基本的な技術を行える。 ・四診によって収集された診断情報を取捨選択して、四虚証の選択とそれに伴う穴の刺鍼が出来る。 ・頭部、顔面部の解剖学的知識を理解し、安全で効果のある技術を学ぶ。
授業の到達目標 (SB0s)	<ul style="list-style-type: none"> ・遭遇する頻度の高い整形外科症状に対して、適切な医療面接、身体診察、病態把握、鍼灸治療の立案および実践を行うことができる。 ・一般臨床で遭遇する可能性のある諸症状について、鍼灸治療の適応・不適応の鑑別ができる。また、適応症状に対して、適切な鍼灸治療を行うことができる。 ・モデル患者に対して、医療面接、身体診察、病態把握、鍼灸治療の立案および一連の鍼灸治療を行うことができる。 ・鍼灸の歴史と経絡治療の歴史を理解することができる。 ・六部定位脈診を理解し証立てに結び付けることができる。 ・証立てと基本穴を理解することができる。 ・経絡治療での全身治療を行うことができる。 ・頭部顔面部の経穴を用いる疾患を理解し施術を行うことができる。 ・皮膚科学を理解して美容鍼灸を行うことができる。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を評価試験にて評価を行う。
成績評価方法	成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】はりきゅう応用実技Ⅱ 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
前期	1	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の診察 復習 1. 腰下肢痛	代表 4 症状の医療面接・身体診察 (徒手検査法)	実技
	2	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の診察 復習 2. 頸肩腕痛		実技
	3	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の診察 復習 3. 肩関節痛		実技
	4	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の診察 復習 4. 膝関節痛		実技
	5	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の診察 復習 1. 腰下肢痛	ロールモデル、医療面接、身体診察、 病態把握・鍼灸施術計画の立案	実技
	6	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の診察 復習 2. 頸肩腕痛		実技
	7	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の診察 復習 3. 肩関節痛		実技
	8	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の診察 復習 4. 膝関節痛		実技
	9	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛 ①肩こり ②頸椎症性神経根症	いわゆる肩こり、頸椎症性神経根症	実技
	10	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛 ③胸郭出口症候群	胸郭出口症候群	実技
	11	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛 ④上肢絞扼性末梢神経障害	上肢絞扼性末梢神経障害	実技
	12	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 2. 腰下肢痛 ①腰痛	腰痛	実技
	13	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 2. 腰下肢痛 ②下肢神経障害	下肢神経障害	実技
	14	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 3. 肩関節痛 ①肩関節周囲炎等	肩関節周囲炎等	実技
	15	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 4. 膝関節痛 ①変形性膝関節症等	変形性膝関節症等	実技
	16	まとめ		実技
	17	前期試験		試験
	18	前期試験		試験
後期	19	経絡治療の歴史と日本鍼灸の歴史 脈診（六部定位脈診、祖脈診の意味と方法）	脈診の種類	実技
	20	腹部四穴の取穴・対人腹部刺鍼	中腕・天枢・関元	実技
	21	六部定位脈診	比較脈診、立ち位置、指の当て方	実技
	22	蔵象（肝、脾）四虚証の基本穴の取穴と刺鍼	曲泉・陰谷・公孫・内関	実技
	23	蔵象（肺、腎）四虚証の基本穴の取穴と刺鍼	太淵・太白・復溜・経渠	実技
	24	頭部顔面部の解剖と経穴	筋肉、神経、動脈	実技
	25	皮膚科学と美容鍼灸	皮膚の構造	実技
	26	頭部の刺鍼	美容目的の刺鍼 5mm程度の深度、方向	実技
	27			実技
	28	顔面部の刺鍼		実技
	29		実技	
	30	各疾患別の施術	顔面麻痺、耳鳴り・難聴・めまい	実技
	31	後期試験		試験
	32	後期試験		試験
33	各疾患別の施術	花粉症、顎関節症	実技	
34			実技	
35	良導絡自律神経調整療法	良導絡自律神経調整療法の一連の治療	実技	
36			実技	

【分野】 専門分野 臨床実習

【科目】 臨床実習Ⅲ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員		
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	前後期	授業形態・回数	講義・演習	24回

【授業情報】

授業概要	<p>臨床実習Ⅲでは数人のグループで鍼灸施術を行い、臨床実践を通して鍼灸師としての必要な知識、技術、コミュニケーション能力などを培う実習となります。</p> <p>また、外部臨床実習として、連日同一あはき施術所にて実習を行い、実習指導者やスタッフ、患者とのコミュニケーション能力を培うと共に、施術見学および補助に携わることで、あはき師としての責任感を養う事を目的に行います。また、将来の就職を念頭に業務の一端を担う事で、現場で求められている治療以外の仕事の重要性を認識することも目的としています。</p>
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次の座学や実技で学習する医療面接、身体診察法について、附属施術所にて患者に対し実践することで、授業では学習しにくい医療面接における傾聴や共感、質問法による病態の絞り込み、信頼関係を構築するコミュニケーション能力、適切な身体診察法の選択や実施の難しさと重要性を理解する。 ・病態の推定や治療を考える事で、診察での情報収集の大切さや目的を理解させる。 ・SOAPに沿った診療録 (POMR) を記載することで治療の振り返りを行い、気づきを促し今後の能力向上に努める。 ・同一患者を連続で施術し経過を追うことで、治療の有効性などを検証し、症例報告書として纏める力をつける。 ・学内・学外にてあはき施術所の業務体験を行う事で治療以外の業務の大切さを理解する。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	<p>評価の観点は</p> <p>1) 実習中における態度、実技習得度、課題の内容</p>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学内：課題レポート（実習記録）による評価 ・学外：臨地見学実習レポート（デイリーノート、振り返りノート） 実習指導者による評価表 <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。</p> <p>(1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 臨床実習Ⅲ 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	行動目標 (SB0s)	講義形態
	1	臨床基礎実習 ・臨床実習前の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・症例報告書を作成する方法を理解できる ・4疾患の医療面接、徒手検査法ができる 	講義 実習
	2	・医療面接、徒手検査法などの復習		
	3	臨床実習4-1 2~3人の班毎に、同一の患者を4回連続で	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に医療面接ができる ・適切に身体所見をとる事ができる ・適切に病態を推定する事ができる ・適切に治療を考える事ができる ・適切に刺鍼・施灸ができる ・適切に生活指導などができる ・適切に診療録を記載できる 	実習
	4	鍼灸施術を担当する		
	5	臨床実習4-2 2~3人の班毎に、同一の患者を4回連続で		
	6	鍼灸施術を担当する		
	7	臨床実習4-3 2~3人の班毎に、同一の患者を4回連続で	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に生活指導などができる ・適切に診療録を記載できる 	実習
	8	鍼灸施術を担当する		
	9	臨床実習4-4 2~3人の班毎に、同一の患者を4回連続で		
	10	鍼灸施術を担当する	※この後、症例報告書を作成できる	実習
	11		<ul style="list-style-type: none"> ・時間管理ができる ・実習指導者、スタッフ、患者さんと良好なコミュニケーションをとることができる ・実習指導者の指示通り、行動できる ・1日の業務を理解し、遂行することができる ・1日の実習についてまとめ、レポートを記載できる 	実習
	12			
	13	外部臨床実習3-1 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う		
	14			
	15			
	16		<ul style="list-style-type: none"> ・時間管理ができる ・実習指導者、スタッフ、患者さんと良好なコミュニケーションをとることができる ・実習指導者の指示通り、行動できる ・1日の業務を理解し、遂行することができる ・1日の実習についてまとめ、レポートを記載できる 	実習
	17			
	18	外部臨床実習3-2 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う		
	19			
	20		<ul style="list-style-type: none"> ・時間管理ができる ・実習指導者、スタッフ、患者さんと良好なコミュニケーションをとることができる ・実習指導者の指示通り、行動できる ・1日の業務を理解し、遂行することができる ・1日の実習についてまとめ、レポートを記載できる 	実習
	21			
	22			
	23	外部臨床実習3-3 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う		
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【分野】 専門分野 臨床実習

【科目】 臨床実習Ⅳ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員		
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	前後期	授業形態・回数	講義・演習	24回

【授業情報】

授業概要	<p>臨床実習Ⅲでは数人のグループで鍼灸施術を行い、臨床実践を通して鍼灸師としての必要な知識、技術、コミュニケーション能力などを培う実習となります。</p> <p>また、外部臨床実習として、連日同一あはき施術所にて実習を行い、実習指導者やスタッフ、患者とのコミュニケーション能力を培うと共に、施術見学および補助に携わることで、あはき師としての責任感を養う事を目的に行います。また、将来の就職を念頭に業務の一端を担う事で、現場で求められている治療以外の仕事の重要性を認識することも目的としています。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次の座学や実技で学習する医療面接、身体診察法について、附属施術所にて患者に対し実践することで、授業では学習しにくい医療面接における傾聴や共感、質問法による病態の絞り込み、信頼関係を構築するコミュニケーション能力、適切な身体診察法の選択や実施の難しさと重要性を理解する。 ・病態の推定や治療を考える事で、診察での情報収集の大切さや目的を理解する。 ・SOAPに沿った診療録 (POMR) を記載することで治療の振り返りを行い、気づきを促し今後の能力向上に努める。 ・症例発表を通じて要点をまとめ、また他班の症例報告から多くの有用な情報を得ることができると理解する。 ・学内・学外にてあはき施術所の業務体験を行う事で治療以外の業務の大切さを理解する。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	<p>評価の観点は</p> <p>1) 実習中における態度、実技習得度、課題の内容</p>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学内：課題レポート（実習記録）による評価 ・学外：臨地見学実習レポート（デイリーノート、振り返りノート） 実習指導者による評価表 <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 臨床実習Ⅳ 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
	1	外部臨床実習Ⅳ ガイダンス	・ 臨地実習についての説明、書類配布など	講義 実習
	2			
	3	症例報告会	・ 臨床実習Ⅲで治療を行った患者さんの 症例報告書を作成できる ・ 各班毎に症例発表を行う事ができる	実習
	4			
	5	臨床実習5-1 2人の1組で班を作り、鍼灸施術にて1人で1人ずつ 施術を担当する	・ 適切に医療面接ができる ・ 適切に身体所見をとる事ができる ・ 適切に病態を推定する事ができる ・ 適切に治療を考える事ができる ・ 適切に鍼灸施術を行うことができる ・ 適切に生活指導などができる ・ 適切に診療録を記載できる	実習
	6			
	7	臨床実習5-2 2人の1組で班を作り、鍼灸施術にて1人で1人ずつ 施術を担当する		実習
	8			
	9	臨床実習5-3 2人の1組で班を作り、鍼灸施術にて1人で1人ずつ 施術を担当する		実習
	10			
	11	外部臨床実習4-1 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う		実習
	12			
	13			
	14			
	15	外部臨床実習4-2 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う	・ 時間管理ができる ・ 実習指導者、スタッフ、患者さんと良好 なコミュニケーションをとることが できる ・ 実習指導者の指示通り、行動できる ・ 1日の業務を理解し、遂行することが できる ・ 1日の実習についてまとめ、レポートを 記載できる	実習
	16			
	17			
	18			
	19	外部臨床実習4-3 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う		実習
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 はき総合学(解剖学)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	鈴木 得二郎	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	<p>生体の構造機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造機能を学んでいく。</p> <p>今までに学んだ解剖学をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行う。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の機能について理解するとともに、その評価方法についても学習する。国家試験に合格するために、解剖学について、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。</p>
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器・呼吸器について理解を深めることができる。 ・消化器について理解を深めることができる。 ・泌尿器・生殖器について理解を深めることができる。 ・神経系について理解を深めることができる。 ・感覚器について理解を深めることができる。 ・骨、関節、筋について理解を深めることができる。 ・解剖学の学習した内容を復習し、理解することができる。

【担当教員から】

教科書	解剖学 (学校協会編)
参考書	
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。</p>
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 3期試験に代わって実施される、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 はき総合学(解剖学) 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
3期	1	復習と発展 (循環器・呼吸器)	循環器・呼吸器の正常な構造	講義
	2	復習と発展 (消化器)	消化器の正常な構造	講義
	3	復習と発展 (泌尿器・生殖器)	泌尿器・生殖器の正常な構造	講義
	4	復習と発展 (神経系)	中枢神経の正常な構造	講義
	5	復習と発展 (神経系)	末梢神経の正常な構造	講義
	6	復習と発展 (感覚器)	感覚器の正常な構造	講義
	7	復習と発展 (骨)	治療に関連する骨、指標となる骨	講義
	8	復習と発展 (関節)	関節の障害	講義
	9	復習と発展 (頭頸部の筋)	頭頸部の筋の起始停止・支配神経	講義
	10	復習と発展 (体幹の筋)	体幹部の筋の起始停止・支配神経	講義
	11	復習と発展 (上肢の筋)	上肢帯・上腕の筋の起始停止・支配神経	講義
	12	復習と発展 (下肢の筋)	下腿・足の筋起始停止・支配神経	講義

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 はき総合学(社会はき学)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	高橋 恵	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	人口問題から疫学、感染症、生活習慣病、さらには環境問題等の現状と問題点を解説するとともに、健康保持のための個人レベル、社会レベルでの方策について医療を担う一員として学ぶ。 今までに学んだ衛生学、関係法規、医療概論をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	疫学・統計を学ぶことで、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師として、社会の中で活動していく上で必要な日本の保健衛生の現状を学習する。 国家試験に合格するために、衛生学、関係法規、医療概論について、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・疫学研究の段階、コホート研究と患者対照研究の違いについて理解することができる。 ・免許・試験について理解を深めることができる。 ・業務・罰則・医事関係法規について理解を深めることができる。 ・健康・環境について理解を深めることができる。 ・産業衛生・精神保健・母子保健について理解を深めることができる。 ・衛生学、関係法規、医療概論の学習した内容を復習し、理解することができる。

【担当教員から】

教科書	「関係法規」(学校協会編) 「衛生学・公衆衛生学」(学校協会編)
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 3期試験に代わって実施される、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 はき総合学(社会はき学) 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25	免許・試験に関する総括	問題演習	講義・演習
	26	業務・罰則・医事関係法規に関する総括		講義・演習
	27	現代医療と医療倫理に関する総括		講義・演習
	28	医療制度と医療施設に関する総括		講義・演習
	29	健康・環境に関する総括		講義・演習
	30	産業衛生・精神保健・母子保健の総括		講義・演習
	31	学校保健・成人・高齢者保健の総括		講義・演習
	32	感染症全般の総括		講義・演習
	33	消毒法全般の総括		講義・演習
	34	疫学・統計の総括		講義・演習
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 はき総合学(リハビリテーション・臨床医学総論)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	伊藤 真悟	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	医療における障害の捉え方や評価法を理解し、リハビリテーション関係職種が実際に行っていることを学ぶ。 今までに学んだ臨床医学総論をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	リハビリテーション医学について学習する。 各疾患に対するリハビリテーションアプローチを学習する。 症状を見て、その疾患を類推できる力を身につける。 国家試験に合格するために、リハビリテーション医学、臨床医学総論についての理解を深め、国家試験問題への十分な知識を習得する。
行動目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ リハビリテーション医学について理解を深めることができる。 ・ 理学療法の運動療法、物理療法について理解を深めることができる。 ・ 作業療法、言語聴覚の治療について理解を深めることができる。 ・ 義肢装具・リハ看護について理解を深めることができる。 ・ 脳血管障害について理解を深めることができる。 ・ 脊髄損傷について理解を深めることができる。 ・ 小児のリハビリテーションについて理解を深めることができる。 ・ 切断について理解を深めることができる。 ・ 各関節の動き・骨関節疾患について理解を深めることができる。 ・ 骨折疾患について理解を深めることができる。 ・ 関節リウマチについて理解を深めることができる。 ・ 末梢神経麻痺について理解を深めることができる。 ・ パーキンソン病について理解を深めることができる。 ・ バイタルサインについて理解を深めることができる。 ・ 全身の診察、局所の診察について理解を深めることができる。 ・ 呼吸器疾患、心疾患について理解を深めることができる。 ・ 神経系の診察について理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	リハビリテーション医学・臨床医学総論（東洋療法学校協会編）
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 1 期試験 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 3. 2、3 期試験に代わって実施される、一、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 はき総合学(リハビリテーション・臨床医学総論) 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	リハビリテーション医学総論、障害の概念、分野	リハビリテーションの概念、障害の概念、リハの対象および分野	講義
	2	リハビリテーション医学、医学的リハ・評価学 1	身体障害の区分、チームの構成メンバー、ROM、MMT、ADL	講義
	3	医学的リハ評価学 2	歩行、参加、運動麻痺、運動発達、高次脳機能、心理、摂食嚥下の評価	講義
	4	医学的リハ治療学 理学療法	理学療法の運動療法、物理療法	講義
	5	医学的リハ治療学 作業療法 言語聴覚	作業療法、言語聴覚、その他のアプローチ法	講義
	6	義肢装具・リハ看護・その他の治療法	補装具、リハ看護、その他の治療	講義
	7	脳血管障害 1	脳血管障害の症状、合併症、評価	講義
	8	脳血管障害 1、脊髄損傷 2	脳血管障害の治療、脊髄損傷の症状、合併症	講義
	9	脊髄損傷 2	脊髄損傷の到達可能なADL、各時期の治療法とリスク管理	講義
	10	小児	小児のリハ、主に脳性麻痺の定義、分類、評価、治療	講義
	11	試験		講義
	12	まとめ		講義
2期	13	切断	切断の原因、分類、合併症、治療	講義
	14	骨関節疾患・骨折疾患	骨関節疾患・骨折のリハビリテーション	講義
	15	骨関節疾患・骨折疾患		講義
	16	関節リウマチ	関節リウマチのリハビリテーション	講義
	17	末梢神経麻痺	末梢神経麻痺のリハビリテーション	講義
	18	パーキンソン病	パーキンソン病のリハビリテーション	講義
	19	呼吸器疾患	呼吸器疾患のリハビリテーション	講義
	20	心疾患	心疾患のリハビリテーション	講義
	21	全身の診察	全身所見疾患	講義
	22	神経系の診察	神経症状	講義
	23	試験		講義
	24	まとめ		講義
3期	25	リハビリテーション医学総論の復習	医学的リハビリテーション	講義
	26	バイタルサインや救急処置などの復習	バイタルの異常、救急処置	講義
	27	リハビリテーションの評価法の復習	リハビリテーションの評価法	講義
	28	運動機能検査	運動機能検査	講義
	29	リハビリテーションの治療法の復習	リハビリテーションの治療	講義
	30	局所の診察	局所の診察	講義
	31	脳卒中・脊髄損傷のリハビリテーションの復習	脳卒中・脊損のリハビリテーション	講義
	32	一般検査・検査数値	一般検査・検査数値	講義
	33	パーキンソン・その他の疾患のリハビリテーションの復習	パーキンソンなど	講義
	34	その他の診察	その他の診察	講義
	35	試験		講義
	36	まとめ		講義

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 はき総合学(生理学・病理学)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	李 英俊	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ「生理学」「病理学」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力と臨床に応用することができる知識を身につける。
授業の一般目標 (G10)	国家試験に合格するために、「生理学」「病理学」について総括し理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。
行動目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・生殖について理解を深めることができる。 ・神経の機能について理解を深めることができる。 ・感覚の機能について理解を深めることができる。 ・呼吸の機能について理解を深めることができる。 ・消化と吸収について理解を深めることができる。 ・代謝・体温について理解を深めることができる。 ・排泄の機能について理解を深めることができる。 ・生理学の基礎について理解を深めることができる。 ・先天性異常について理解を深めることができる。 ・退行性病変・進行性病変について理解を深めることができる。 ・病因について理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	生理学（第3版）：東洋療法学校協会編 病理学（第2版）：東洋療法学校協会編
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 2、3期試験に代わって実施される、一、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習と発展を行うこと
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のスマートフォン、携帯電話の使用は原則禁止 ・教科書中心の予習、復習と発展をすること

【授業計画】 はき総合学(生理学・病理学) 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13	生理学(生殖)	性反射、性周期	講義
	14	病理学(先天性異常)	奇形、遺伝性疾患、染色体異常	講義
	15	生理学(神経)・演習	興奮と伝導、シナプス伝達	講義
	16	生理学(神経)・演習	中枢神経	講義
	17	生理学(神経)・演習	末梢神経(脳神経)	講義
	18	生理学(自律神経)・演習	交感神経と副交感神経の機能	講義
	19	生理学(自律神経)・演習	中枢、神経伝達物質と受容体	講義
	20	病理学(退行性病変)・演習	変性の分類	講義
	21	病理学(進行性病変)・演習	肥大と増殖、再生、化生、創傷治癒	講義
	22	生理学(感覚)・演習	特殊感覚	講義
	23	生理学(感覚)・演習	体性感覚	講義
	24	復習		講義
3期	25	生理学(呼吸)・演習	肺機能、ガス交換	講義
	26	生理学(呼吸)・演習	呼吸運動と調節	講義
	27	生理学(消化)・演習	消化液	講義
	28	生理学(消化)・演習	消化管の運動と吸収、肝臓の働き	講義
	29	生理学(代謝)・演習	糖質、脂質、タンパク質、ビタミン	講義
	30	生理学(体温)・演習	産熱と放熱、発汗	講義
	31	生理学(排泄)・演習	尿生成	講義
	32	生理学(排泄)・演習	体液調節、蓄尿と排尿	講義
	33	生理学(基礎)・演習	細胞、体液、物質移動	講義
	34	病理学(病因)・演習	外因	講義
	35	病理学(病因)・演習	内因	講義
	36	復習		講義

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 はき総合学(東洋医学概論・経絡経穴概論)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	岡田 智和	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ「東洋医学概論」「経絡経穴概論」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力と臨床に応用することができる知識を身につける。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、「東洋医学概論」「経絡経穴概論」について総括し理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弁証論治・骨度法・接続部位について理解を深めることができる。 ・ 弁証論治・要穴について理解を深めることができる。 ・ 四診法・十四経脈（督脈～肝経）について理解を深めることができる。 ・ 十二経脈病証について理解を深めることができる。 ・ 奇経八脈病証・奇穴について理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	新版 東洋医学概論・新版 経絡経穴概論（東洋療法学校協会編）
参考書	経絡演習図（呉竹学園編） 東洋医学概論（東洋療法学校協会編）
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 3期試験に代わって実施される、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

【授業計画】はき総合学(東洋医学概論・経絡経穴概論)2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25	弁証論治・骨度法・接続部位	弁証論治、骨度法や経絡の接続部位	講義
	26	弁証論治・要穴	弁証論治、要穴の解剖学的位置	講義
	27	弁証論治・要穴		講義
	28	四診法・十四経脈（督脈～肺経）	四診法、十四経脈	講義
	29	四診法・十四経脈（大腸経～脾経）		講義
	30	四診法・十四経脈（心経～膀胱経）		講義
	31	四診法・十四経脈（腎経～肝経）		講義
	32	総復習		講義
	33	十二経脈病証	十二経脈病証	講義
	34	奇経八脈病証・奇穴の復習	奇経八脈、奇穴の解剖学的位置と主治	講義
	35	総復習	問題演習	講義
	36	総復習	問題演習	講義

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 はき総合学(西洋系)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	渡邊 博亮	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	9回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ病理学、臨床医学総論、リハビリテーション医学、臨床医学各論などの西洋医学的観点から国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、病理学、臨床医学総論、リハビリテーション医学、臨床医学各論について理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・全身の診察について理解を深めることができる。 ・神経系・運動機能検査について理解を深めることができる。 ・さまざまな疾患に対する西洋医学的観点について理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	病理学概論・臨床医学総論・リハビリテーション医学・臨床医学各論 (東洋療法学校協会編)
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 3期試験に代わって実施される、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 はき総合学(西洋系) 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期				
2期				
3期	1	全身の診察のまとめ	問題演習	講義
	2	全身の診察のまとめ	問題演習	講義
	3	神経系・運動機能検査の診察のまとめ	問題演習	講義
	4	神経系・運動機能検査の診察のまとめ	問題演習	講義
	5	さまざまな疾患に対する西洋医学観点のまとめ	問題演習	講義
	6	さまざまな疾患に対する西洋医学観点のまとめ	問題演習	講義
	7	さまざまな疾患に対する西洋医学観点のまとめ	問題演習	講義
	8	まとめ	問題演習	講義
	9	まとめ	問題演習	講義

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 はき総合学(東洋系;経絡経穴概論)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	萱間 洋平	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	9回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ経絡経穴概論の知識を総合して、臨床に応用することができる知識を習得する。東洋医学的観点から国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、経絡経穴概論について理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。
行動目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・骨度法・接続部位について理解を深めることができる。 ・要穴について理解を深めることができる。 ・十四経脈について理解を深めることができる。 ・奇穴について理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	新版 経絡経穴概論 (東洋療法学校協会編)
参考書	経絡演習図 (呉竹学園編)
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 3期試験に代わって実施される、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 はき総合学(東洋系:経絡経穴概論) 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期				
2期				
3期	1	骨度法・接続部位	骨度法、接続部位	講義
	2	要穴	要穴の解剖学的位置	講義
	3	十四経脈（督脈～肺経）	問題演習	講義
	4	十四経脈（大腸経～脾経）	問題演習	講義
	5	十四経脈（心経～膀胱経）	問題演習	講義
	6	十四経脈（腎経～肝経）	問題演習	講義
	7	奇穴の復習	奇穴の解剖学的位置	講義
	8	まとめ	問題演習	講義
	9	まとめ	問題演習	講義